

ALPS処理水に係る海域環境モニタリングの結果を分かりやすく情報発信するための新規Webサイトを立ち上げ予定。
当初年内完成を目指していたが、現時点では2023年2月頃に暫定版の完成を目指している。

[illegible]

最新のモニタリング結果

東京電力福島第一原子力発電所周辺
広域（海水トリチウム）

東京電力福島第一原子力発電所周辺
近接（海水トリチウム）

東京電力福島第一原子力発電所周辺
近接（その他）

東京電力福島第一原子力発電所周辺 広域（海水トリチウム）

最終更新日：****年**月**日

北緯30°50km以内
距離 0.11～距離 0.11

北緯30°50km
距離 0.11～距離 0.11

約津波海水浴場
距離 0.11～距離 0.11

厚岸漁港海水浴場
距離 0.11～距離 0.11

放出口30km
距離 0.11～距離 0.11

北条海水浴場
距離 0.11～距離 0.11

南田10km(5測点)
距離 0.11～距離 0.11

用器5km(2測点)
距離 0.11～距離 0.11

近河津海水浴場
距離 0.11～距離 0.11

放出口30km
距離 0.11～距離 0.11

久之浜海水浴場
距離 0.11～距離 0.11

放出口50km
距離 0.11～距離 0.11

惣瀬海水浴場
距離 0.11～距離 0.11

放出口50km以内
距離 0.11～距離 0.11

30-50km(5測点)
距離 0.11～距離 0.11

50km以内(11測点)
距離 0.11～距離 0.11

凡例

- トリチウムを測定する測点
- ▲ 主要な核種を測定する測点
- ◆ 水質生態（魚類）を測定する測点
- 水質生態（鳥類）を測定する測点
- 水質生態（植物）を測定する測点
- 水質生態（海藻）を測定する測点

モニタリング組織

- 環境省
- 東京電力株式会社
- 関係機関

※測定結果表示中の測定方法は測定距離を示しています。
※測定結果の単位は、Bq/L(1000分の1)で表示しています。
※測定結果表示中の測定方法は、測定距離を示しています。
※測定結果表示中の測定方法は、測定距離を示しています。
※測定結果表示中の測定方法は、測定距離を示しています。
※測定結果表示中の測定方法は、測定距離を示しています。

[illegible]

拡大マップ

情報発信において参考とする指標の表記方法について

環境省ALPS処理水海域モニタリングHPデザイン案の概要



Webサイト上の参考値の説明について

- HP冒頭に**指標とその数値の幅を表示**し、それぞれの指標の詳しい説明はWebサイト後半に掲載することを検討している。
- HP冒頭に掲載する**指標とその幅についてご意見をいただきたい。**

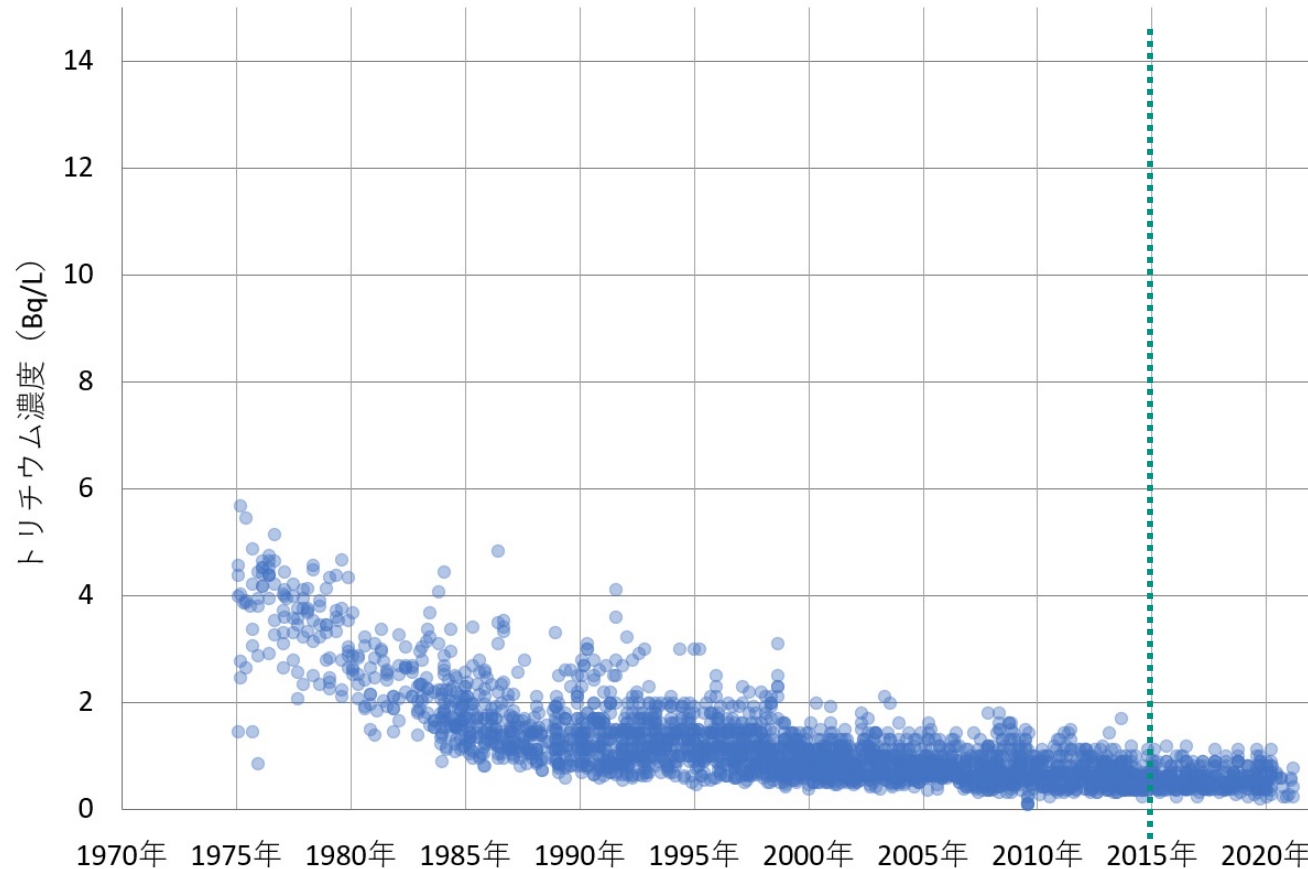
情報発信において参考とする指標の表記方法について

Webサイト上の参考値に係る論点

- 降水、陸水（蛇口水等）、海水ともに過去の**大気圏内核実験の影響がほぼ見られなくなつてからの時期（例えば直近5～10年程度）の変動範囲**を用いてはどうか
（なお、環境省が実施している他のモニタリング事業においては、東京電力福島第一原発事故の影響が大きかった時期を除いて変動範囲として比較している）
- **陸水については**資料2－1のとおり、河川水、上水、蛇口水等の種類によらずほぼ同じ傾向を示していることから、**最も身近なものとして蛇口水の変動範囲**を用いてはどうか
- **海水（世界全体）については**、海外のデータとして使用できるIAEAのデータベースについては、掲載されている**地域、時期ともに偏りが大きいことから**、適切な補足説明を要すると考えられるところ、簡単に表現する部分よりも、Webサイト後半に**関連エビデンスとしての掲載**としてはどうか
- **海水（日本全国）については**、従来から各原子力施設からの管理放出によって、ある程度高めの測定値が出ているが、ALPS処理水の放出による影響について比較する趣旨から、**これらを含めた変動範囲**を用いて問題ないとするがどうか

情報発信において参考とする指標の表記方法について

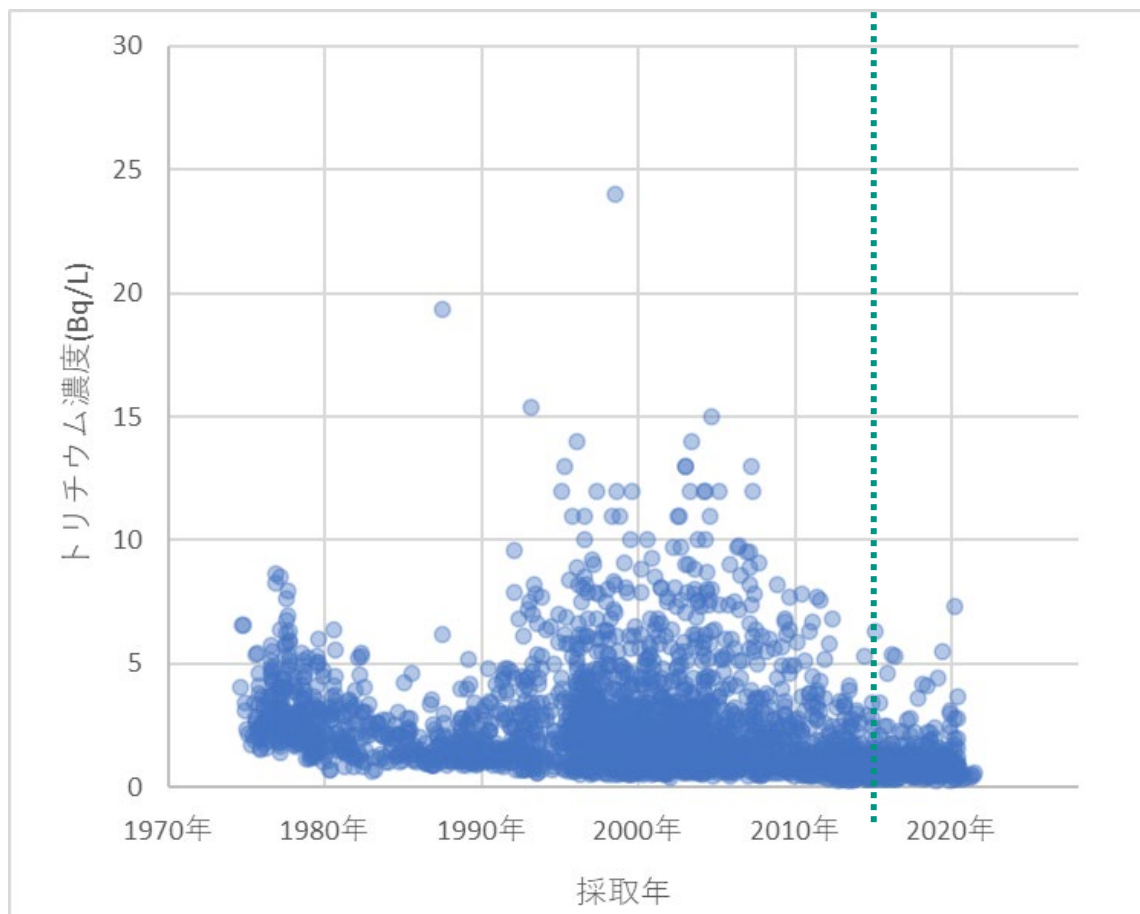
蛇口水のトリチウム濃度について (環境放射線データベースより抽出)



蛇口水のトリチウム濃度の分布を示す。1970年代は高い値を示しており、2015年頃からデータが安定して横ばいの状況が見られる。2015年以降の最大値は 1.2Bq/L であった。

情報発信において参考とする指標の表記方法について

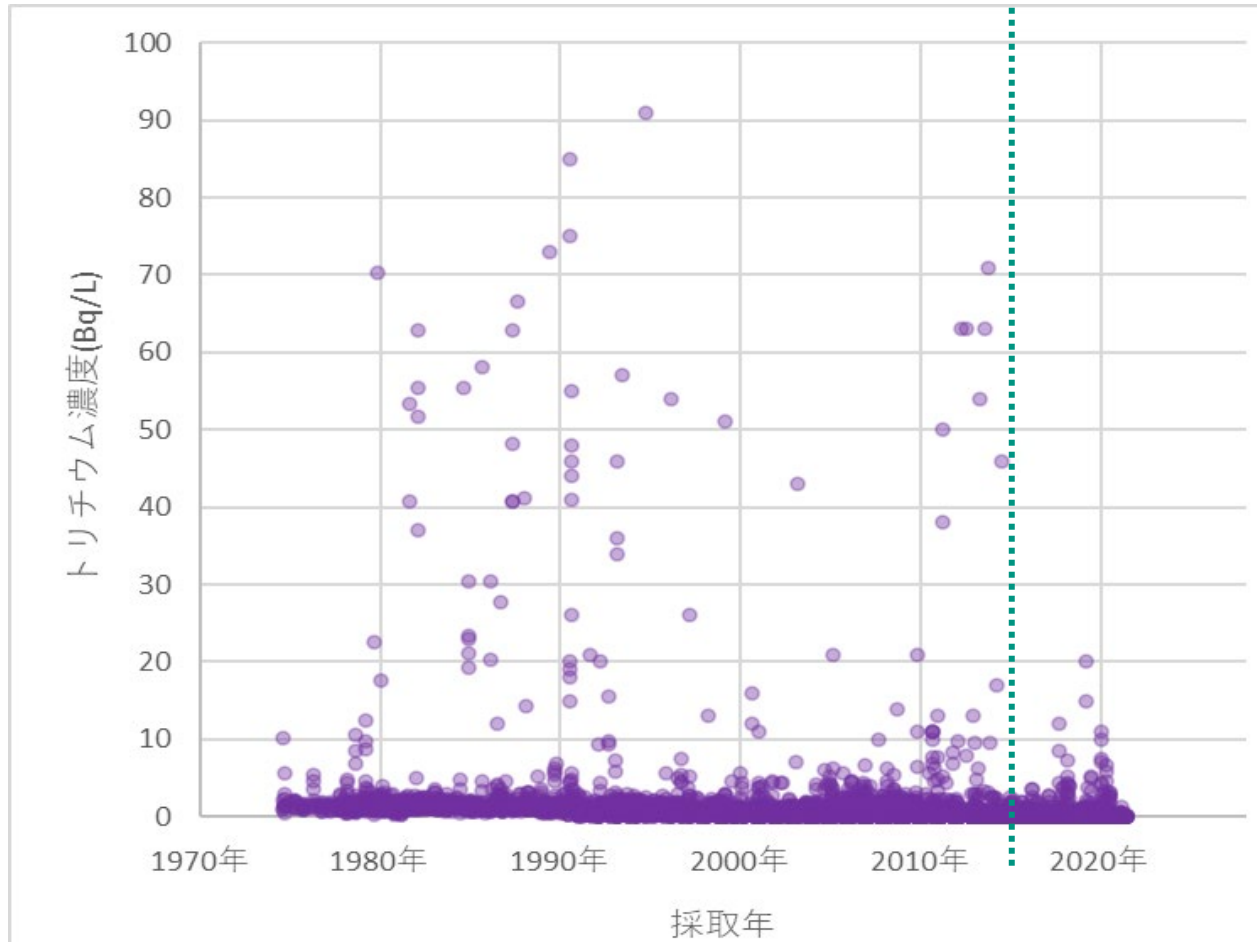
降水中のトリチウム濃度について （環境放射線データベースより抽出）



降水中のトリチウム濃度の分布を示す。1970年代から高い値を示しており、こちらも2015年頃からデータが安定して横ばいの状況が見られる。2015年以降の最大値は 7.2 Bq/L であった。

情報発信において参考とする指標の表記方法について

海水中のトリチウム濃度について （日本近海／環境放射線データベースより抽出）



海水のトリチウム濃度の分布を示す。1970年代は高い値を示しており、こちらも2015年頃からデータが安定して横ばいの状況が見られた。2015年以降の最大値は 20Bq/L であった。

情報発信において参考とする指標の表記方法について

国内外のトリチウムに関する指標値について

前回の専門家会議のご助言を踏まえ、東京電力が政府方針に則って定めたALPS処理水放出時の運用の上限値、WHOの飲料水水質ガイドラインの基準、国内安全規制法令における排水の濃度限度の3点で予定している。

国内外のトリチウムに関する指標値・身の回りにあるトリチウムの濃度

トリチウム（三重水素）は水素の仲間なので、地球上のどこにでも存在しています。

またトリチウムは、宇宙から地球に降り注ぐ放射線（宇宙線）が空気中にある窒素や酸素とぶつかることで常につくられ続けています。このため、空気中の水蒸気・雨水・海水・水道水などはもちろん、私たちの体の中にも含まれています。

国内外のトリチウムに関する指標値

東京電力の
ALPS処理水放出基準

検討中

1,500 Bq/L未満

WHO飲料水基準



10,000 Bq/L

国の安全規制の基準

検討中

60,000 Bq/L